

若松の魅力紹介

～人気集める海と山。豊かな自然と新事業が共生するまち 若松区～

中 央 地 区

【若松南海岸通り】

○ 若戸大橋

洞海湾をまたぐあざやかな赤い橋は、3年6ヶ月の工期をかけ、昭和37年に完成しました。

平成30年12月1日には通行料無料化が実現。これに合わせて開始された若戸大橋ライトアップは、令和4年8月に日本夜景遺産®に認定されました。冬は、若松イルミネーションも伴い、夜景観光スポットとしても注目を集めています。

令和4年2月には我が国の長大吊橋の技術原点として、歴史的、技術的見地から重要であるとの評価を受け、国の重要文化財に指定されました。



○ 旧古河鉱業若松ビル

レンガ造りのひととき目立つこのビルは、1919年（大正8年）に建築され、現在若松に残された近代建築の中では最も華やかな外観をもっています。コミュニティホールとして一般開放されており、若松南海岸通りのシンボリック存在です。

100周年を迎えた2019年（令和元年）には、記念式典をはじめ、多くの記念イベントが開催されました。（平成20年7月国登録有形文化財に登録、平成29年4月日本遺産に認定）

【見学可、休館日：毎週火曜日・年末年始】

○ 上野ビル

三菱合資会社若松支店として1913年（大正2年）に建築。2～3階が吹き抜けで、回廊によって事務所の入り口を確保し、ステンドグラスによる光天井は当時のままです。現在も事務所や店舗として使用されています。（平成25年3月に国登録有形文化財に登録、平成29年4月日本遺産に認定）



【若松恵比須神社】

漁の神、海運の神、商売繁盛の神を祭っており、毎年4月・12月に「若松えびす祭」が催されます。若松えびす祭は、「おえべっさん」として親しまれ毎年多くの人が参拝しています。境内には江戸期の方石や力石なども残されています。



【火野葦平旧居「河伯洞」】

若松が生んだ芥川賞作家・火野葦平の旧居で、葦平の河童好きにちなみ、河童の住む家という意味の「河伯洞」と名づけられています。昭和15年から35年に亡くなるまでの大半を過ごしました。建物は、葦平の出征中に「麦と兵隊」など兵隊3部作の印税で父・金五郎が建てたもので、



葦平は戦地での戦友たちの苦勞への思いから、このことを負担に感じていたといえます。平成8年10月、遺族から北九州市へ寄贈され、平成9年に市指定文化財に指定されました。【見学可、休館日：毎週月曜日（月曜日が休日の場合は開館し、翌日が休館）・毎月第3木曜日（祝日でも休館）・祝日の翌日（祝日が連続した場合は、最後の祝日の翌日。祝日が土曜日の場合は除く。）・年末年始】

【若戸大橋橋台部壁画（若松夏祭り）】

若戸大橋橋台部壁画は、若松区ゆかりの版画家、故・片山正信先生の木版画を原画として、数百枚の陶板タイルを使用して制作しました。「若松夏祭り」、「恵比須祭(春)」、「脇ノ浦裸祭」の祭三部作と「若松駅操車場」、「旧若松区役所」の風景2部作で構成され、平成2年3月に設置されました。その後、一部が剥がれ落ちるなどしたため、平成24年に若戸大橋開通50周年に合わせて復元しました。

洞海湾の海風を感じながら壁画を鑑賞できる屋外ギャラリーとなっています。



「若松夏祭り」

【白山神社】

霊峰白山（石川県）への山岳信仰に由来する神社で、社宝として、享保年間、福岡藩修多羅米蔵の奉行・肥塚次郎右衛門が奉納した伊万里焼の絵馬（市指定文化財）が伝えられています。火野葦平著「幻燈部屋」の中で「高塔山の麓にある白山神社の境内に、かすり模様の金明竹が生えた。この竹は戦争のあるたびに必ず生えるといわれる。」と記されています。なお、火野葦平著「花と龍」の中では、「高塔山の麓、



近くに白山神社のある高台に、鹿鳴館張り、青ペンキ塗りのハイカラな木造館がある。アーチ作りの門にかけられた看板が、ガス燈の光で「最新式高等西洋料理店・突貫亭」と読まれる」とあり、昭和初期当時のモダンな雰囲気 of 若松を窺い知ることができます。

【高塔山公園】

高塔山公園は、高さ124mの高塔山の山頂にある公園です。展望台からの眺望は素晴らしく、東に若戸大橋や皿倉山、北に響灘を望めます。緑と四季の花に恵まれ、春は桜・ツツジ、初夏はアジサイの名所として知られ、アジサイは、区民ボランティアの協力により植樹されています。

7月には、まるで炎の大蛇のような「たいまつ行列」が高塔山にうねり登る「火まつり」が行われ、その様子は壮観です。

○ 河童封じの地蔵尊

山頂には火野葦平の小説「石と釘」に登場する「河童封じの地蔵尊」が御堂の中に祀られ、石仏の背中には、河童を封じ込めたと伝えられる大きな釘が打ち込まれています。



○ 夜景

高塔山山頂展望台から眺める夜景は『河童の隠した宝石箱』と称され、平成25年7月に日本夜景遺産®に認定されました。

高塔山からの夜景は、北九州市のシンボルともいえる若戸大橋を中心に、工場群や街並みの灯りが近い距離で眺望でき、北九州市の魅力が凝縮されています。この高塔山の夜景を、火野葦平の親友、作家・丹羽文雄は、著書「この世の愁い」で、「無数の宝石をちりばめたよう」と表現しています。



また、令和4年3月には高塔山からの夜景などが評価され、北九州市が「新日本三大夜景都市」にランキング1位で再認定されました。

【五平太ばやし】

かつて石炭積み出し港として隆盛を極めた若松。そこに石炭の荷役で働くごんぞう達の「若松ごんぞう歌」も残っていましたが、現在唄われている五平太ばやしは火野葦平の作詞によるものです。“ごんぞう”と呼ばれた石炭荷役の心意気は五平太ばやしの甲高い木樽の音や、軽快なリズムの中に今も息づいています。現在は毎年7月のくきのうみ花火の祭典に合わせて「五平太まつり」を開催し、各チームがそれぞれの衣装で五平太船を押し、太鼓を打ち鳴らし踊りながらまちを練り歩いています。



洞 海 湾 地 区

【岬（はな）ノ山公園】

岬（はな）ノ山公園は、古前一丁目にある公園です。

公園の東屋から10万㎡を誇った旧藤木栈橋と貯炭場跡や対岸の製鉄所、洞海湾を一望することができ、古前地区の桜の名所として知られています。



【原田川ほたるの里／藤ノ木ほたるの里】

洞海湾地区には、ほたるの住みやすい環境づくりをしている「ほたるの里」が2ヶ所あります。校区のまちづくり協議会等が中心となって、ほたるの幼虫やえさになる川二ナの放流、整備工事、草刈清掃などを行い、毎年5月～6月には“ほたる”の飛翔を観察することができます。

「原田川ほたるの里」は東二島一丁目にある原田川の山手にあり、ゲンジ、ハイケ、ヒメの3種類のほたるを揃って観察できる珍しい場所です。

「藤ノ木ほたるの里」は、藤ノ木市民センターから200mほど山手に登った百合野町公園横の赤島川にあります。



響 灘 地 区

【脇之浦はだかまつり】

海の男たちが豊漁と航海の安全、家の繁栄を祈願する「脇之浦はだかまつり」は1月10日に行われる400年近い歴史を持つ脇之浦地区の伝統行事です。さらしを腹にまいた男衆が、力石を小竹白山神社に奉納します。

この祭りには古くから、海からの福を大切にしてきた海の民の伝統が守り継がれています。



【小石ちょうちん山笠】

昭和28年を最後に姿を消した提灯山笠が平成9年に復活しました。

高さ12段にもなる光のピラミッドは、昔のように町内を担いで廻ることはできませんが、地元の小学校の校庭で勇壮な様を見ることができます。



西部地区

【若松北海岸】

玄海国定公園は、若松区大字安屋から始まり、博多湾、唐津湾を経て東松浦の海岸まで続く絶勝の地。脇田から岩屋までの10km余りは、この国定公園の玄関口といったところです。グリーンパークに程近い「脇田海水浴場」、干潮時に板状の岩盤を見せる「千畳敷」、夕日の名所として知られる「遠見ヶ鼻」、長い海岸線をもつ「岩屋海水浴場」など遊び所十分。海水浴、釣り、マリンスポーツなどを楽しむ人たちでにぎわっています。



【岩屋・遠見ヶ鼻の芦屋層群】

若松北海岸の北西側に突出する岬は“岩屋・遠見ヶ鼻”として知られ、芦屋層群と呼ばれる約2,500～3,200万年前の地層や貝類の化石などが露出しています。これは、日本列島が大陸から分裂し、島弧となる過程を示す地層として価値が高いとされ、平成24年に福岡県指定史跡及び天然記念物に指定されました。



【ひびき海の公園（愛称：マリンパーク）】

若松北海岸の中でもマリンスポーツやフィッシングで親しまれてきた脇田海岸が、さらに多くの市民に愛されるエリアとして生まれ変わりました。

釣り桟橋、人工海浜、多目的広場、フィッシャリーナなどの交流ふれあい施設の整備が進むこの脇田地区を、広く市民に親しんでいただくため、エリア名称を「ひびき海の公園（愛称：マリンパーク）」としました。



公園内施設「SIOIRI」

【響灘緑地「グリーンパーク」】



頓田貯水池を中心に広大な緑地が広がる響灘緑地「グリーンパーク」（196ha）は、変化に富んだ自然が広がる市内最大の公園です。貯水池の周辺には、サイクリングターミナルや玄海青年の家、おひさまの家、休憩舎なども整備しています。また、有料公園区域内には大芝生広場をはじめ、世界最長のブランコや熱帯生態園、ひびき動物ワールドなどがあります。

令和5年4月にはキャンプ施設「HIBIKINADA CAMP BASE」がオープンしました。

【乙丸のほら貝祭り】

乙丸の貴船神社で毎年4月15日に行われる「ほら貝祭り」は、およそ200年前から行われている伝統行事で、ご神体のほら貝にお神酒を入れて飲むと、不老長寿の薬になると言い伝えられています。

この伝統にちなんで、神主が祝詞をあげた後、ご神体のほら貝に実際にお神酒を入れて、参拝者にふるまいます。



【二島祇園】

日吉神社の祇園祭に古くから伝承されているもので、毎年7月中旬の2日間行われています。

昔の山笠は背の高い岩山（いわやま）でしたが、現在では一般的な人形飾山の曳山（東二島2台、二島1台）にかわりました。しかし御神幸次第は昔ながらに整然と行われており、祭事の伝統は氏子によって守り継がれています。



【水切りトマト】

若松区で作られている「水切りトマト」は、水分を極限まで控えて栽培する、こだわりのトマトです。果物のような強い甘味と凝縮された旨味で喜ばれています。



【若松潮風®キャベツ】 ※2013 年 商標登録

福岡県で出荷量一位を誇る若松の特産品。ミネラルをたっぷり含んだ潮風を常に受けて育ち、甘みが強く、巻きが強く、ずっしり重く、鮮度も長持ちするのが特徴です。



【若松妙見かき】

脇之浦地区で養殖が始まり、5年の歳月をかけ、若松区の特産品として誕生しました。響灘の澄んだ海域で生産されていることから、クリーミーで奥深い旨味があり、プリッとした食感が魅力です。



【北九州あわび】

岩屋漁港で始めたあわびの陸上養殖は平成30年1月に初出荷を迎えました。特許技術「ナノバブル」で微細な酸素を含んだ水を発生させ、夜行性のあわびに合わせて赤い照明下で飼育することで、健康的で良質なあわびを提供しています。



【若松ワイン】

有毛地区では、平成25年からワイン専用品種のブドウが栽培開始され、平成27年、他のワイナリーでの委託醸造による若松産ブドウを使ったワインが誕生しました。その後、北九州市が平成28年10月にワイン特区に認定されると、この特区を活用し、平成30年より自家醸造が開始され、純若松産ワインが完成しました。



【HIBIKI FRESH HOPS 若松エール】

若松でホップを育て門司港地ビール工房が醸造した、北九州市で初の生ホップ使用の地ビールが令和2年に完成。贅沢にポップを使用することで、香りが際立つフルーティーな口当たりに仕上がりました。



郷土の誇り

◆ 火野葦平（1907～1960）



火野葦平(本名:玉井勝則)氏は、郷土若松の誇る偉大な作家です。昭和13年に、「糞尿譚(ふんにょうたん)」で第6回芥川賞を受賞、兵士としての経験に基づく「麦と兵隊」「土と兵隊」「花と兵隊」の兵隊3部作はベストセラーになり、一躍国民的作家となりました。

戦後も、自伝的小説「花と龍」「革命前後」などの力作を世に問い、昭和35年(1960年)に亡くなるまでに執筆した単行本は200冊にのぼります。

また、「高塔山火まつり」の発案や郷土芸能・五平太ばやしの作詞を手がけるなど、郷土若松を愛し続けました。

現在、原稿書簡、日記等の遺品は「火野葦平資料館(若松市民会館内)」に展示されるとともに、旧居はこよなく愛した河童にちなみ「河伯洞」と名付けられ公開されています。



◆ 佐藤慶太郎（1868～1940）



佐藤慶太郎氏は、若松で石炭商を営み「石炭の神様」と呼ばれた人物であり、表裏のない誠実さによって、銀行や取引先のみならず、坑夫からも大きな信頼を得ていました。

事業で築いた私財のほとんどを公のために寄付し、特に、東京府美術館(現在の東京都美術館)の建設費として約100万円(現在の価値で約33億円)を寄付し、日本で初めての常設美術館を誕生させたことで全国的にも有名です。

高塔山の麓にあった私邸は若松市に寄贈され、現在は、佐藤公園として市民の憩いの場所になっています。